

親子で実践！深海の世界に触れ、広がる ESD

田中 一秀*

この世界には、まだまだ我々人類の手が簡単には入らない、そこへ行くには困難を極める場所がいくつも存在する。

極地と呼ばれる北極圏や南極圏、星々きらめく遠い宇宙や地中奥深い人類未踏の洞窟の世界、そして今回の寄稿での題材となる、深海の世界などが例に挙げられる。暗く、寒く、高い水圧が襲う極限世界だ。

誰も見たことがない世界、誰も知らないことだらけの世界というのは、単に幼い子供だけがわくわくするだけではない。今まで知らなかったことを知ることで視野は広がり、そして直に触れる生の体験を通して ESD の精神は育まれる。海が無い土地で育つ子供たちに、深海生物に触れる機会を用意できないだろうか？そのような気持ちから、幼い息子と共に親子で実践する ESD 教育環境作りの活動が始まった。

息子の興味の種類を育てるべく、深海生物のイラストを製作していた時に、世界で唯一の深海延縄漁師・「深海おじさん」こと長兼丸ちようかねまるの船主・長谷川久志さんと知り合うことができた。

何度か静岡県と自宅を行き来し、長谷川さんから深海延縄漁などで獲った生物を実際に見せて頂き理解を深めた。深海生物を直に見た最初の感動は特に鮮烈で記憶に焼き付いている。

長谷川さんが深海延縄漁を行う場所は、富士山の南側に広がる駿河湾である。その深さは最も深い地点でなんと水深 2500m もある日本一深い湾である。

まずは長谷川さんとの交流の中でも特に興味を惹かれた、深海サメを内容に含む図鑑テイストの絵本を製作した。製作した絵本を海が無い岐阜県の保育園、小学校等に寄贈し交流を深めることができた。夏休みの期間中に長谷川さんをはじめ沢山の方々の力をお借りし、図書館等の公共施設で深海生物イベントを開催した。

深海生物イベントを通して、子供たちに深海延縄漁のことや、駿河湾深海世界の素晴らしさ、漁を行う静岡県焼津市やいづの土地のこと、そして現在早急解決が求められる海洋プラスチック問題として、駿河湾深海にもビニールゴミやペットボトルゴミが存在していることなどを深海で撮影された



図1 静岡県焼津市小川港長兼丸船上にて長谷川さんと

*サイエンスイラストレーター／成蹊学園サステイナビリティ教育研究センター客員フェロー



図2 図書館で行った絵本読み聞かせイベント



図4 名古屋港水族館で行われた絵本読み聞かせイベント



図3 海なし県で行われた長谷川さん協力の深海生物イベント

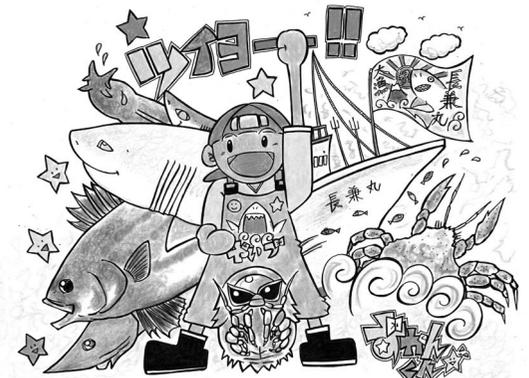


図5 長谷川さんとの交流を記念して描いたイラスト

映像などで分かりやすく伝えることができた。

さらに、長谷川さんが直々に子供たちのために静岡県から貴重な深海サメを沢山持ってきてくださったり、岐阜県にある世界淡水魚水族園アクア・トトからも、所蔵の貴重なミツクリザメをお借りできたりとイベント会場内で自由に子供たちが触れ、観察できる場を実現させることができた。深海の世界からやってきた、誰も見たことがない本物の生物たちを前に、参加した子供たちは目をキラキラと輝かせていたことがとても印象に残っている。

その後の展開として、近隣県にある名古屋水族館内でボランティアスタッフによる絵本の読み聞

かせイベントなども行われ、幼い息子と小さなきっかけで始めたESDの輪は今も大きく広がりを見せている。

この活動を通して、実際に深海の世界へ行くことは困難であるが、誰でもESDの環境を整えることでESDの精神は育まれるということを実感した。

これからもESDに関わる活動をしていきたいと思う。

親子で実践！深海の世界に触れ，広がるESD

深海生物イベントの開催，サメの絵本図鑑の制作にあたり静岡県焼津「長兼丸」の長谷川久志様，長谷川一孝様，百科編集部の藤田敦子様，北海道大学名誉教授の仲谷一宏様，世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ館長の池谷幸樹様，名古屋港水族館ボランティアスタッフ榎原聖様を始め大勢の方のお世話になりました。

深海世界を学びたいという気持ちを持ち，親子で取り組んだことでかけがえのない沢山の御縁を頂くことができました。海の世界を通して広く学ぶ機会に恵まれたと思っています。

活動を応援下さる方々へ，この場をお借りしてお礼申し上げます。